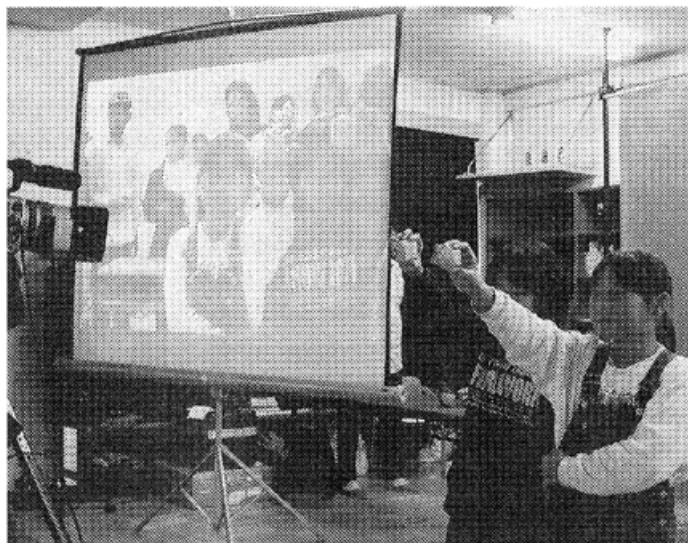


# 衛星回線使い交流

## 和泉・信太小4年生とアフガンの児童



紙風船づくりの見本を見せ、スクリーンのアフガニスタンの児童と「一緒に作る児童たち（和泉市立信太小で）」

和泉市立信太小（奥村直史校長）の四年生約九十人が十三日、アフガニスタン・カブール市内の児童とテレビ電話による遠隔授業で、一緒に折り紙を樂しむなど交流した。

### TV電話で遠隔授業

アフガニスタンの教育省に復興支援で派遣中の大阪内海成治教授が、両国の児童の交流授業を企画。総合学習の時間で、日ごろアフガニスタンについて学んでいる信太小が選ばれた。

遠隔授業は衛星電話回線を使い、この日、午後一時半から約二時間にわたり行われた。別々に撮った映像

を一つの画面に映す特殊な技術を用い、スクリーンには、両国の子どもたちが一緒にの教室にいるように映し出された。信太小の児童は、ランドセルの中身を見せたり、ヘチマの絵を紹介。見本をみせながら、折り紙で紙風船を作った。アフガニスタンの児童はラクダの絵や、片方の足だけで跳びはねる日

### 一緒に折り紙楽しむ

本の子どもの遊び「けんけんに似た遊びを披露した。アフガニスタンの児童の一人は「これからも交流を続けたい」と話し、信太小

の児童は「きれいな絵を見せてくれてありがとう」とお礼を述べた。最後にアフガニスタンから「さようなら」、信太小からは現地のタリ語で「ホダハフェズ」と、互いの言葉で別れのあいさつをした。